

高柔軟性の新電線発売

太陽光発電向けなど拡販

られる仕様。併せて樹脂には燃焼時の有害物質排出を抑えるハロゲンフリー材料を使用し、欧州の環境規制RoHS指令に適合していることも特長となっている。

同社では太陽光発電所向けに、パネル間や集電ボックス回りの配線で1500℃まで対応できるPVCQを拡販している。今後EMFCCをセットで販売することで提案力を高める。

古河電工業業電線（本社・東京都荒川区、社長・松本康一郎氏）はこのほど、柔軟性を大幅に高めた新型ケーブル「EMFCC」を開発し販売を始めた。太陽光発電所でパワーコンディショナーと変圧器をつなぐ用途に加

えて、配電盤同士の接続などで期待している。高い柔軟性で曲げ半径は従来品の約半分。施工性を大幅に高めている。

で結ぶ用途では、CVケーブルやCMTケーブルなどが用いられているが、硬く曲げにくいことが施工時の課題となっていた。同社が今年度から市場に投入した新製品のEMFCC（耐燃・可とう性架橋ポリエチレンケ

ブル）は絶縁材料や導體形状の工夫で柔軟性を向上。ゴムケーブルの柔らかさを実現し、狭いスペースでも取り回しがしやすくなっている。90度までの耐熱性があるほか、マイナス60度までの低温にも耐え

太陽光発電所内で直流と交流を変換する機器のパワーコンディショナーと変圧器を野外

